

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2020年1月)

【内政】

- 22日、政府は本年中に予定されていた次期市・区議会議員選挙(地方選挙)の投票日を5月17日とすることを閣議決定した。(23日, La Nation 紙)

【外政】

- 26-30日、タロン大統領はワシントンを訪れ、ポンペオ国務長官、マルパス世界銀行総裁らと会談した。31日、アベノンシ外務・協力相は、同訪問に関する報告記者会見を開催した。(2月1日, La Nation 紙)

【治安】

- 6日、サヴェ市において市民と治安部隊が衝突し、市民側に死者を出す事件が発生した。24日、共和国警察長官は記者会見を開き、同事件の首謀者を逮捕し、事態が沈静化したことを発表した。(27日, La Nation 紙)
- 31日、在ベナン日本大使館と国際移住期間(IOM)は共同記者会見を開催し、日本が支援するベナン北部国境における移民管理システムの導入について説明を行った。(2月1日, La Nation 紙)

【経済】

- 2日、UEMOAによる2019年下半期各国経済観測報告書によれば、綿花、穀物等の農作物の好況に伴い2019年のベナンの経済成長率は7.6%に上ると推計されている。(7日, La Nation 紙)
- 2日、ベナン駐ベナン中国大使は記者との対談で、2020年にベナン・ニジェール間の石油パイプラインを中国企業が6千億 CFA フラン(1,200億円)で建設することを公表した。(6日, L'Économiste 紙)
- 23日、小西淳文駐ベナン日本国大使は、3A地区の保健センターへの救急車供与に係る署名式をクロディーヌ・タロン財団との間で実施した。供与金額は約4千万フラン CFA(800万円相当)にのぼる。(27日, Le Matin Libre 紙)

【文化・その他】

- 21日、国家教育評議会が発足し、委員29名がタロン大統領の任命により5年の任期で正式就任した。役割は国の教育に関する指針の提示、基本方針の決定、フォローアップ、評価等である。(22日, La Nation 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙、および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 9日、政府は、テロ対策経済犯罪裁判所(CRIET)に二審制を導入すべく改正法案を国民議会に送付することを閣議決定した。(9日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 9日、政党認可証の獲得の是非をめぐり二つに分裂していた FCBE 党は、同党の名誉総裁を務めるヤイ・ボニ前大統領の仲裁により同認可証を獲得するとの結論で一致し、両派の和解が成立した。(13日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 14日、タロン大統領はウィダ市アヴレケテ地区の防波堤建設現場を視察し、工事の進捗状況につき報告を受けた。(15日、La Nation 紙)
- ・ 22日、政府は本年中に予定されていた次期市・区議会議員選挙(地方選挙)の投票日を5月17日とすることを閣議決定した。(23日、La Nation 紙)
- ・ 23日、ドイツの NGO「トランスペアレンシー・インターナショナル」の2019年腐敗認識指数が公表され、調査対象の180国中、ベナンは80位に位置づけられた。(24日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 23日、エコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)は、2019年世界の民主主義に関する報告書を公表し、ベナンは前年の81位から97位に順位を落とした。(24日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 政府は月例記者会見を開催することを決定し、24日、第一回目が開催された。オルンラ通信・郵便大臣兼報道官は、記者からの時事に関する質問に応答した。(27日、La Nation 紙)

【外政】

- ・ 14日、高等視聴覚通信局(HAAC)のモレッティ長官は、オセリ駐ベナン・トルコ大使を迎え、テレビ・ラジオ分野での両国の連携可能性について意見交換を行った。(15日、La Nation 紙)
- ・ 15日、新任のアマル・アフィフィ駐ベナン・エジプト大使は、アベノンシ外務協力相に信任状の写しを奉呈した。(16日、La Nation 紙)
- ・ 23日、タロン大統領は公式訪問したマルタ騎士団の皇太子を迎え、55年にわたる両国間関係の強化について意見交換した。(24日、La Nation 紙)
- ・ 26-30日、タロン大統領はワシントンを訪れ、ポンペオ国務長官、マルパス世界銀行総裁らと会談した。31日、アベノンシ外務・協力相は、同訪問に関する報告記者会見を開催した。(2月1日、La Nation 紙)

【治安】

- ・ 1日、共和国警察はアボメ・カラヴィ市ウオメ地区において、軍人殺害の容疑者を含む5人の強盗を射殺した。(2日、Le Matinal 紙)
- ・ 7日、サッカ・ラフィア内務・治安相は、国境地域集中管理局の理事会のメンバー7名を正式に任命した。同メンバーの任務は、国境管理を管轄する機関の指導・監督である。(8日、La Nation 紙)

- ・ 8－9日、北部マランヴィル市の各区において、治安対策として住民の戸籍謄本の確認、非居住者登録帳の整備が実施された。(14日、La Nation 紙)
- ・ 16日、セメ・ポジ市の中古車販売会場において発砲事件が起き、死者1名、負傷者1名が発生し、数百万 CFA フランが強奪された。(17日、La Nation 紙)
- ・ 21日、ズー県ウィンヒ市サゴン地区において、30代及び40代の男性が殺害されているのが発見された。容疑者は国境を越えて移動する移牧者であるとの証言が出ている。(22日、La Nation 紙)
- ・ 6日、サヴェ市において市民と治安部隊が衝突し、市民側に死者を出す事件が発生した。24日、共和国警察長官は記者会見を開き、同事件の首謀者を逮捕し、事態が沈静化したことを発表した。(27日、La Nation 紙)
- ・ 27日、ウンパティン保健大臣はコロナウイルスに関し、国境でのウイルス探知、感染の疑いのある者の隔離等の措置を強化すること及び感染しないための対策をベナン国民に向けて発表した。(28日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 31日、在ベナン日本大使館と国際移住期間(IOM)は共同記者会見を開催し、日本が支援するベナン北部国境における移民管理システムの導入について説明を行った。(2月1日、La Nation 紙)

【経済】

- ・ 2日、UEMOAによる2019年下半期各国経済観測報告書によれば、綿花、穀物等の農作物の好況に伴い2019年のベナンの経済成長率は7.6%に上ると推計されている。(7日、La Nation 紙)
- ・ 2日、ベ駐ベナン中国大使は記者との対談で、2020年にベナン・ニジェール間の石油パイプラインを中国企業が6千億 CFA フラン(1,200億円)で建設することを公表した。(6日、L'Économiste 紙)
- ・ 7－9日、JICA 専門家2名が医療・保健サービスの質の向上を目的に、同分野のスタッフを対象とした「5S・カイゼン」に関する研修会を実施した。(9日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 9日、ワダニ経済・財務相と中国国際かつら・繊維製造グループのル会長は、同グループのベナン進出に係る基本合意書に署名した。これによりベナン人若年層が数千人単位で雇用されると期待される。(13日、La Nation 紙)
- ・ 昨年12月に BCEAO(西アフリカ諸国中央銀行)により発表された2018年国際収支報告書によれば、ベナンの対中国輸出品目の構成割合は綿が79.7%、鉄が11.3%、木材が4.5%であった。(15日、L'Économiste 紙)
- ・ 14－17日、アボメ・アラヴィ大学内にある孔子学院の主導で、ベナン人の米の生産者、研究者を対象に、穀物の生産性倍増を達成するための研修会が開かれた。(20日、La Nation 紙)

- ・ 21日, ズマル・デジタル経済・デジタル化相は, デジタル化に関するアジェンダ2020を発表した。計画には, 企業及び家庭向け大容量高速通信網の整備, 教育施設におけるデジタル通信室の整備等が含まれる。(22日, La Nation 紙)
- ・ 22日, 政府はマリア・グレタ地区において120MWの発電施設を一機増設することを閣議決定した。(23日, La Nation 紙)
- ・ 23日, 来訪したオランダの協力副大臣はアベノンシ外務・協力相と会談し, ベナンの若年層に職業訓練を施し労働市場に送り出すべく, 職業・技術訓練に関する協力方針を協議した。(24日, La Nation 紙)
- ・ 23日, 小西淳文駐ベナン日本国大使は, 3A地区の保健センターへの救急車供与に係る署名式をクロディーヌ・タロン財団との間で実施した。供与金額は約4千万フラン CFA(800万円相当)にのぼる。(27日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 29日, 小西淳文駐ベナン日本国大使は, アボメ・アラヴィ市ラ・ヴェルデュール中学校建設計画に係る贈与契約の署名式を実施した。(31日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 30日, 国民議会はニジェール・ベナン間の石油パイプラインの建設計画に係る法・財務・税関体制に関する法案を採択した。(31日, La Nation 紙)

【文化・その他】

- ・ 8日, 中国文化センターのウェイ館長は, 2020年春節に伴うイベントを発表した。ベナン全土15都市での映画上映, 雑技団によるショーなどが予定されている。(9日, La Nation 紙)
- ・ 10日, ベナン各地でヴードゥー教の祝祭が開催された。(13日, La Nation 紙)
- ・ 11-12日, マリ共和国の首都バマコで開催された西アフリカ空手大会において, ベナン人空手家10名が参加し, 金・銀メダル各2つ, 銅メダル7つを獲得した。(22日, La Nation 紙)
- ・ 14日, アベノンシ外務・協力相は, ペン駐ベナン中国大使の出席の下, 中国の出資によって改修された国際会議場の視察式を実施した。(15日, La Nation 紙)
- ・ 21日, 国家教育評議会が発足し, 委員29名がタロン大統領の任命により5年の任期で正式就任した。役割は国の教育に関する指針の提示, 基本方針の決定, フォローアップ, 評価等である。(22日, La Nation 紙)
- ・ 昨年12月から1月末にかけて, 2020年バカロレアの書類提出期間が設けられている。バカロレア実施事務局長は, 今年は約11万人が受験するとの見通しを示した。(24日, La Nation 紙)